



国立大学図書館協会 近畿地区

(主担当：和歌山大学)

その時図書館はどう動くか？
～大規模災害時における対応及び事前準備について～

「災害時における歴史資料の救援・保全」

和歌山大学クロスカル教育機構学術情報センター図書館

橋本唯子

2017.9.1

本日の主な内容

はじめに 自己紹介を兼ねて

- 1 災害時の図書館
 - 2 災害後の図書館の活動
 - 3 那智勝浦町の活動と「いま」を記録すること
 - 4 歴史資料ネットワークの活動—災害時にどう動くべきか
- おわりに—私たちがいまできること・すべきこと

はじめに 自己紹介を兼ねて

➤ 橋本唯子

Hashimoto Yuiko

兵庫県・石川県・滋賀
県・福井県など各地にお
いて博物館・資料館・

文書館・自治体史編さん担当部署・などに勤務、学芸員資格所持、仕
事柄図書館職員とのコンタクトは多く、同一部署内だったことも
阪神・淡路大震災における歴史資料の保全活動に参加（歴史資料ネッ
トワーク、通称史料ネット）

☆被災地の歴史資料・文化財の保全、震災の経験の記録化と保存!!
★幅広いネットワークづくりを通じて、歴史・文化を復興に活かす!!
☆被災地から全国へ、歴史学と社会をめぐる普遍的な課題へ!!

史料ネット NEWS LETTER

第22号 2000年11月13日(月)

発行 歴史資料ネットワーク(神戸大学文学部内)
TEL/FAX 078-803-5565

目次	
鳥取県西部地震の被災史料・文化財保全 について	1
鳥取県西部地震で被災史料を救出 大国正美...	3
鳥取県西部地震、被災史料ボランティア 活動参加記 三村昌司...	4
神戸市長田区駒ヶ林地区再調査について 橋本唯子...	7
史料ネット活動報告書の編集作業 馬場義弘...	8
シンポジウム「阪神・淡路大震災をどう 伝えるか」開催される 寺田匡宏...	8
文献情報/公害・環境問題資料の保存に 関する緊急要請	10

鳥取県西部地震の被災史料・文化財保全について

- 阪神・淡路大震災の時と同様のご支援を訴えます -

10月6日に発生した鳥取県西部地震により、鳥取・島根両県を中心に、甚大な被害が出ました。史料ネットでは、10月7日の緊急代表・事務局会議、10月11日の第74回運営委員会で以下のような対応方針を暫定的に決定しました。

はじめに 自己紹介を兼ねて

➤ 図書館に必要な人材とは？

図書館ヘビー級ユーザーから「図書館職員」へ

ユーザーの視点が必ずしも反映されず、「館の事情」が優先される状況もあり

学芸員として図書館活動に寄与する（私なりの）方法を模索

（例：図書館に「眠る」地域資料にかかる提言）

付けたり 図書館法における「郷土資料」

➤ 図書館法第三条 図書館奉仕 一

第三条 図書館は、図書館奉仕のため、土地の事情及び一般公衆の希望に沿い、更に学校教育を援助し、及び家庭教育の向上に資することとなるように留意し、おおむね次に掲げる事項の実施に努めなければならない。

付けたり 図書館法における「郷土資料」

➤ 図書館法第三条 図書館奉仕 一

一 郷土資料、地方行政資料、美術品、レコード及びフィルムの収集にも十分留意して、図書、記録、視聴覚教育の資料その他必要な資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「図書館資料」という。）を収集し、一般公衆の利用に供すること。

「郷土や郷土関係者などに関する文献、視聴覚資料、博物館的資料などの当該地域に関する一切の資料。（略）公共図書館はその地域の専門図書館の側面を有するので、その地域の資料を収集し、レファレンス質問に応える責任があるといわれている。」

（『最新図書館用語大辞典』、柏書房、2004）

1 災害時の図書館

➤ 災害時に図書館は「どうなる」か？ 各地の事例

長岡市立中央図書館

神戸市立須磨図書館

東日本大震災被災地の図書館

【災害対応：ふたつの活動】

- ・被災した歴史資料を守ること
- ・災害自体の記録を歴史資料として残すこと
- ☞ 活動を通じて「なぜ史料を残さなければならないのか？」「なぜ図書館が必要なのか？」を考えること

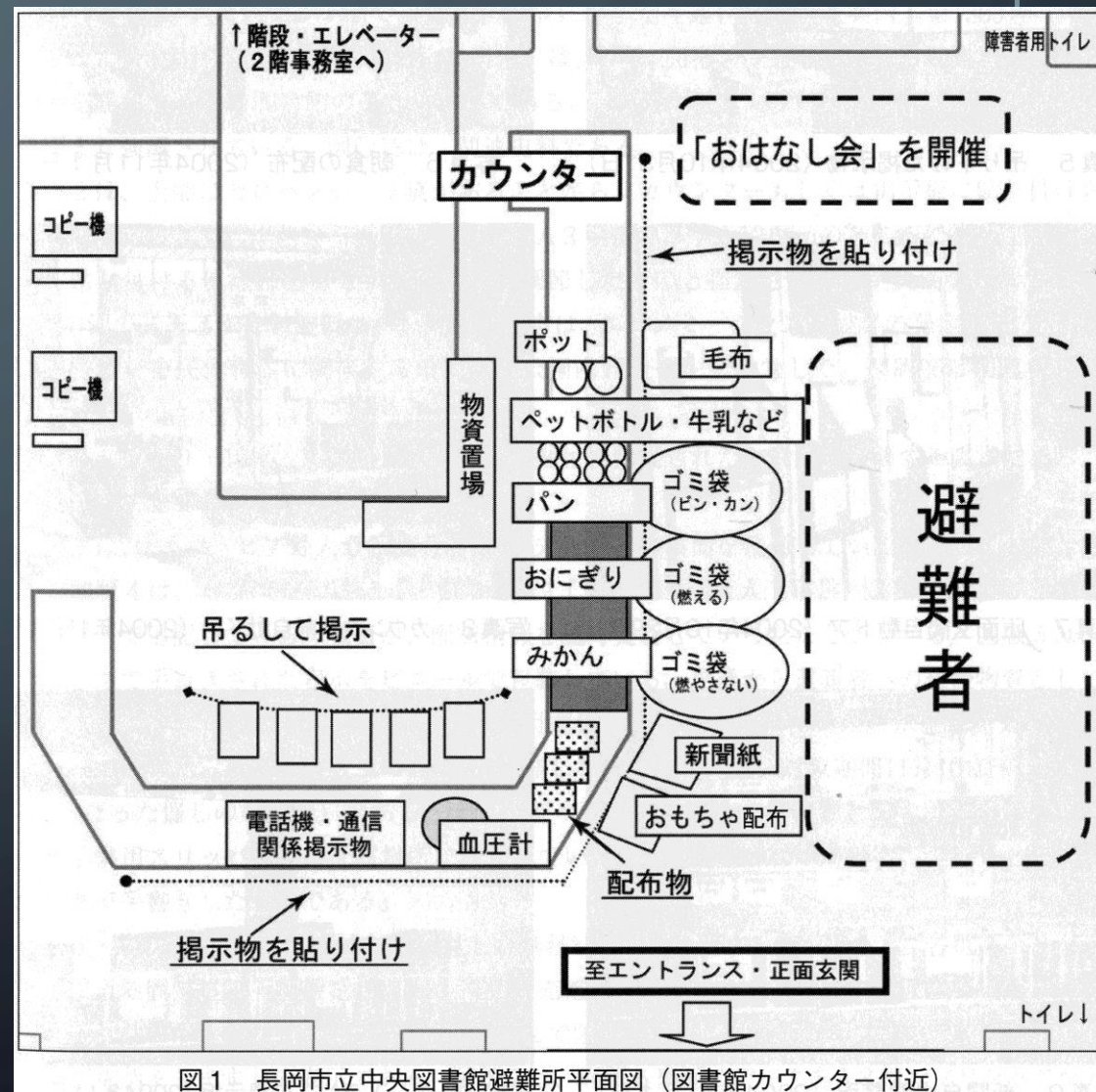
1 災害時の図書館 災害時に図書館は「どうなる」か？

➤ 長岡市立中央図書館

2004（平成16）年10月23日新潟県中越地震により避難所に

「長岡市民体育館が被害をうけて使用できなくなったため、急遽、臨時の避難所として開放した。」→地域の要請もあり16日間避難所に

矢田俊文, 長岡市立中央図書館文書資料室編『震災避難所の史料：新潟県中越地震・東日本大震災』（長岡市立中央図書館文書資料室、2014）



1 災害時の図書館 災害時に図書館は「どうなる」か？

➤長岡市立中央図書館の被災直後の収集活動（2-2参照）

長岡市立中央図書館文書資料室長から「被災「文書等」の取扱いについて（お願い）」

「県民の貴重な財産が消失しないよう、住民の皆様への周知方よろしくお願い申し上げます」

長教文第29号
平成16年11月3日
長岡市立中央図書館
文書資料室長

被災「文書等」の取扱いについて（お願い）

震災で被害にあわれた市民の皆様におかれましては、謹んでお見舞い申し上げます。さて、このたびの震災では多くの歴史資料の被災が予測されます。長岡市は北辰戦争、長岡空襲により多くの文化的財産を失いました。復讐付けが難しいと存じますが、下記の新潟県立文書館よりの「被災した「文書等」の取扱いについて」の趣旨にご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、被災した「文書等」の取扱いについてご相談のある方は文書資料室までご連絡ください。

《連絡先》 〒950-0065
長岡市坂之上町4丁目1番地20(五等文庫2階)
新潟県立中央図書館文書資料室
TEL 025-284-7822, FAX 0258-37-3754
E-mail: [redacted]

教文第970号
平成16年11月2日
古町教育委員会
文化財室長 堀
新潟県教育庁文化行政課長
新潟県立文書館長

被災「文書等」の取扱いについて（お願い）

このたびの「新潟県中越地域」により被害を受けた古町におかれましては、謹んでお見舞い申し上げます。さて、手紙をはるかに上回る枚数の被災「文書等」が生じていると思われる。それらの取扱いにつきまして、下記のような点に注意していただきたいと思います。復讐業務に忙殺されている中、誠に恐縮ではございますが、県民の貴重な財産が消失しないよう、住民の皆様への周知方よろしくようお願い申し上げます。

- 1 塵埃や土等が付着した古文書・本・写真・アルバム・絵画・美術品等は、土等を払いのければ復元可能な場合が多いので、慎重に処理してください。
- 2 書類のつぶれた場合は新しい紙に入れ替えてください。元の場所へ戻せない場合は、取りあえず湿気を防げる場所か密着に移動しておいてください。
- 3 雨や水に濡れたものは、そのまま乾干してください。ページとページがくっつかないように、風通性の高い紙（新聞紙や厚手紙でもよい）を挟み込むとよいです。
 - ① 水濡れは乾燥にしないでください。
 - ② 濡れたままでもニール袋や密着に乾燥機に入れておかないでください。
- 4 これらのことについてお困りの方、又はご相談を希望される方は、古町教育委員会文化財担当を通じて、あるいは直轄新潟県立文書館へお問い合わせください。

* なお、震災に被災した古物類等の買い出しに際しては、安易に売ったり、引き取ってもらわないよう、ご注意いただきたいと思います。

【問い合わせ先】
〒950-8502
新潟市文庫第3-1-2
新潟県立文書館
TEL 025-284- [redacted]
FAX 025-284- [redacted]

1 災害時の図書館 災害時に図書館は「どうなる」か？

- 被災後果たすべき役割、対応すべきことは多岐にわたる
たとえば水害時に全ての資料を救出できるか、すべきか？
限られた時間に救出する資料、優先順位をつけるならばどうなるか？
- 防災対策
 - 施設の防災対策強化・資料保存（メディアによる代替保存）
 - いまできること（水害に備え最下段をあけた配架、備品の購入など）
 - 防災マニュアル・避難訓練の徹底

2-1 災害後の図書館の活動 震災文庫

➤ 神戸大学震災文庫（震災文庫リーフレットより）

「被災地の中心にある図書館の責務として、災害復興や地震研究・防災対策などに役立てていただけるよう、震災にかかわる資料を広く収集し、1995（平成7）年10月30日に「震災文庫」として公開を始めました。」

➤ 稲葉洋子「神戸大学「震災文庫」の挑戦」

「上司から「今回の震災の資料を収集して公開しようと思うが、どうだやれるか？」と聞かれた。（略）おもしろそうという思いから引き受けた。側にいた同僚は、「えらいこと引き受けるなあ」と思ったと後から言われた。」

2-1 災害後の図書館の活動 震災文庫

- 第1回展示「資料でたどる阪神・淡路大震災の記録と記憶」開催
(2004年11月)

887名の来場者 (うち、学外から約600名)

- 一般公開およびインターネット公開

1999年「神戸大学電子図書館システム」運用開始にあたり、電子化公開することが重点課題のひとつとされた

2-1 災害後の図書館の活動 震災文庫

▶ 震災文庫の収集資料

2-2 災害後の図書館の活動 長岡市立中央図書館

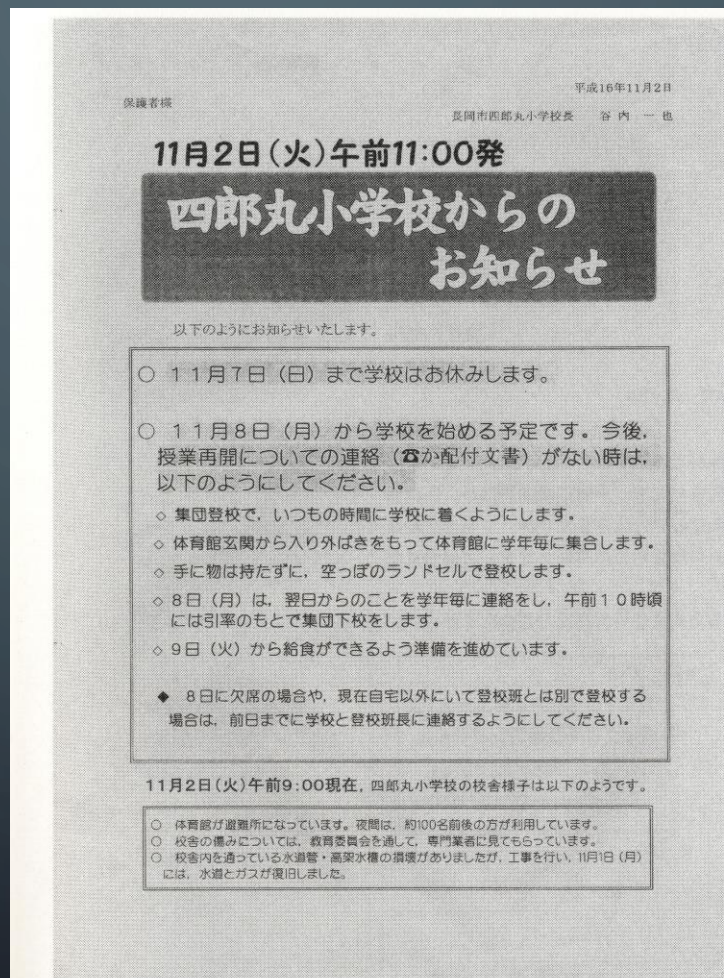
矢田俊文, 長岡市立中央図書館文書資料室編『震災避難所の史料：新潟県中越地震・東日本大震災』（長岡市立中央図書館文書資料室、2014）

➤ 長岡市立中央図書館 震災史料の収集と保存・活用

「捨てるつもりで入れられていた袋にまるで貝塚のように史料が残されていた」（文書資料室スタッフの言）

👉 刊行物への掲載

東日本大震災における南相馬市の避難所開設、史料収集に効果



31 四郎丸小学校からののお知らせ（休校日・開校日）
（掲示物、11月2日、長岡市立四郎丸小学校長、A3）

図書館開館のお知らせ

中越地震のため、休館しておりましたが、下記のとおり分館、文書資料室を開館いたします。

なお、中央図書館はもうしばらくお待ちください。

開館日

11月3日(水) 午前9時30分～午後5時
11月4日(木) 午前9時30分～午後5時
※11月5日(金)から分館、文書資料室は通常どおりの開館になります。

開館する施設

互尊文庫（学習室含む）
西地域図書館・南地域図書館
北地域図書館・文書資料室

32 図書館開館のお知らせ
（掲示物、長岡市立中央図書館、A3）

3 那智勝浦町の活動と「いま」を記録すること

➤ 那智勝浦町と和歌山大学との事業

2011（平成23）年台風12号水害の「記憶
と記録を残す」

那智勝浦町「台風12号水
害関連資料」（仮称）より

右:総0018-0099

左:総0018-0004

3 那智勝浦町の活動と「いま」を記録すること

➤ 那智勝浦町と和歌 山大学との事業

2011（平成23）年
台風12号水害の「記
憶と記録を残す」

那智勝浦町「台風12号水
害関連資料」（仮称）より

総0001-0019

4-1 歴史資料ネットワークの活動

➤ 歴史資料ネットワークとは

阪神・淡路大震災を契機として、文化遺産（とりわけ指定文化財以外の民間所在史料）の救出・保全を目的として発足したボランティア団体
延べ800人のボランティアを組織、段ボール箱で約1,500箱の史料を救出
+ 震災そのものに関わる資料・記録の収集保存活動にも提言

4-2 歴史資料ネットワークの活動 歴史資料保全ネットわかやま

和歌山県立博物館『災害と文化財』より水害救出文化財



参考11 エタノールの噴霧

カビの状態を確認しながら、エタノールを噴霧して、カビの発生を押さえる応急処置を行う。



参考12 「思い出品」を所蔵者のもとに

「思い出品」はボランティアによって、クリーニングや簡易補修が施された(左)。きれいになった「思い出品」は、野々小学校の職員室に展示され(右)、一部は所蔵者のもとに返っていった。



4-2 歴史資料ネットワークの活動 歴史資料 保全ネットわかやま

➤「思い出の品（≠指定文化財）」をどう残すか

那智勝浦町の活動（那智川流域に収納箱を設置してを収集）

4-3 歴史資料ネットワークの活動実例

▶ 水損史料クリーニング

とりあえず「すぐ捨てない」

ただし「放置しない」

和紙は意外と丈夫です

無理にこじあけない

作業環境を確保

状態によっては修復可能

カビ発生など

洗浄する・エタノール噴射など


空気入れ替え・マスク着用

4-3 歴史資料ネットワークの活動実例

捨てないで！！

水に濡れた歴史資料は乾燥できます！！

おうちにある和書・古い本・新聞・記録・アルバム・写真等は、乾かせます！！
これらは家の大切な記録であり、また地域の歴史を知る重要な手がかりになります。
捨てる前に、まず史料ネットにご相談ください！！



歴史資料ネットワーク(史料ネット)

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学文学部内
電話&FAX: 078-803-5565

歴史資料とは？

- ◎古文書(くすした文字で和紙に書いたものなど)
- ◎古い本(和紙に書かれて冊子にしてあるものなど)
- ◎明治・大正・昭和の古い本・ノート・記録(手紙や日記など)・新聞・写真・絵
- ◎古いふすまや屏風(古文書が下貼りに使われている場合がよくあります)
- ◎自治会などの団体の記録や資料
- ◎農具、機械りや養蚕の道具、古い着物など、物づくりや生活のための道具など

私たち、歴史資料ネットワーク(事務局・神戸大学文学部内)は、1995年に発生した阪神・淡路大震災の被災地で、歴史資料をはじめとした文化遺産の救出・保全をおこなってきた、歴史研究者を中心としたボランティア団体です。私たちは、その際に、全国の歴史学会など関係団体から支援を受けて、自治体や市民と協力しながら、地域社会の民間資料の救出や文化財の被害調査などをおこなってきました。これまで、2009年の兵庫県佐用町・宍粟市での水害や、2011年の東日本大震災など、各地で発生する地震や水害の被災地において、歴史資料の保全・再生に取り組みまいりました。私たちがこのような活動を行ってきたのは、災害が起きるとそれを契機に家や蔵に古くから置かれていた歴史資料が破壊・処分・売却されてしまうことがよくあるからです。

文化財に指定されているような著名なものだけが歴史資料ではありません。昔の人の暮らしぶりなど、地域や家族の歴史を知る手がかりとなるものすべてが歴史資料です。家々にはさまざまな形で家の記録や地域の歴史を伝えるものが数多く残されています。しかし、災害により長く伝えられてきた古い文書や記録などがなくなってしまうとすれば、それは家にとっても地域にとっても残念なことといわざるをえません。これらのものは母屋や蔵、あるいはその中の箱やタンス、長持・行李などに収められています。一見すれば紙くずやゴミのようにみえるものでも、実際には貴重な歴史資料である場合がよくあります。

歴史資料ネットワーク

〒657-8501
神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学文学部内
電話&FAX: 078-803-5565

メール: s-net@lit.kobe-u.ac.jp
ホームページ: http://siryu-net.jp

水濡れ史料の吸水乾燥方法

古い記録、古文書(こもんじょ)、写真... 残しておきたいものを捨てないように、ご家庭でできる簡単な処置方法をご紹介します。もっとも、完全に乾かすためには、専門家の技術が必要です。お困りになった際は、いつでもご連絡ください(裏面)。相談に応じます。

◆◆やってはいけないこと◆◆

- * 冊子を無理にこじあげないでください。
- * 天日やアイロン・ドライヤーなどで急激に乾燥させないでください。電子レンジでの乾燥も歴史資料を傷めます。
- * とにかく捨てないでください！
→ 迷った際はすぐにご連絡を！

◆◆応急措置の方法◆◆

全てを行う必要はありません！電気や水道のライフラインの復旧状況が許す範囲内で対応してください。

【用意するもの】



ペーパータオル(キッチンペーパー)・エタノール
スプレーボトル(霧吹き/エタノールを史料に噴霧する際に利用)
新聞紙・マスク・ゴム手袋(薄手のもの)
竹べら・水をはったバレット

【作業を行うにあたっての留意】

- * エプロンか作業着を着用。あるいは汚れてもいい服装で行う。
- * マスクは必ず着用すること。また、エタノールを扱う際にはゴム手袋を着用すること。
- * 常に換気を行うこと(可能であれば除湿機の作動、扇風機での送風を加える/空気清浄機を作動させることができればなおよい)。
- * 30分に1回は必ず休憩をはさむこと(長時間連続で作業に従事することがないように心がける)。
- * 作業終了後、うがい、手洗いを必ず行うこと。
- * 指輪・時計・ネックレス・ヘアピンなど、史料に損傷を与える危険のあるものははずしておく。袖の釦(特にカフス等)が気になる場合は、腕まわりをしておく。

【紙の歴史資料について】

◆軽い水濡れの場合◆

- * 防カビのため消毒用エタノール(エチルアルコール)を噴霧してください(可能であれば一日一回)。
- * 直射日光の当たらない、通気性のよい場所で陰干しをしてください。

い。室内で乾かす場合は、可能であれば、扇風機などを利用し、空気が循環するように心がけてください。ただし、歴史資料に直接風をあてるのは避けてください。

◆水濡れがひどい場合(応急措置)◆

- ①新聞紙の上にペーパータオルを敷き、そのうえに史料をのせる。
- ②ページが開きそうな箇所を確認し、ページを開く、開きにくい場合は、竹べらを用いて展開する。
- * 必ずしも一枚ずつページを展開する必要はない。
- * 臭いがつきやすい場合はページ全体にエタノールを噴霧すること。
- ③開いたページにペーパータオルを挿入し、一度冊子を閉じる。表紙の上にペーパータオルをもう一枚置き、その上から軽く押さえてペーパータオルに水分を移動させる(吸水させる)。
- * 必ず一度冊子を閉じること。開いたまま押さえると、綴じを傷める可能性がある。



ペーパータオルをはさむ 史料を一度開いた状態 乾くおさえる

- ④再びペーパータオルを挿入したページを開き、挿入したペーパータオルを抜き取る。新しいペーパータオルを用意したのち、別のページを開く。
- ⑤②～④の繰り返し。エタノールの噴霧、綴じの部分の水気をとることは、意識して入念に行うこと。
- ⑥全てのページが展開できるようになり、触った際に水分が手のひらに移らなくなったら、作業完了。あとは風通しのいい場所で史料を陰干す。
- * 直射日光に当たらないこと。史料の変形・劣化・退色が生じる。

◆泥などの汚れ、カビなどにより損傷がひどい場合◆

- * 泥のカタマリなど、落とせるものは落としてください。消毒用エタノール(エチルアルコール)を噴霧し、そのままの状態ではビニール袋に入れます。封はとくにしないでください。
- この段階で一度、必ずご連絡を入れてください。専門処理機関に真空凍結乾燥法や吸水乾燥法により乾燥させます。乾燥作業が終了した後に、お返いたします。
- * 防カビのための処置で最もよいのは、冷凍凍結です。ご家庭の冷凍庫でも対応可能です。

【写真の場合】

- * 写真プリントは、清潔な水をはった容器の中でゆっくゆっく汚れを落とします(汚れをぬぐわないでください)。あとは洗濯バサミなどで写真の端をとめて吊るし、直射日光の当たらない、通気性のよい場所で陰干ししてください。
- * 写真のネガ・フィルムも直射日光の当たらない、通気性のよい場所で陰干ししてください。

地域や家族の歩みを伝える貴重な歴史資料を守る活動に何とぞご理解・ご協力いただきますようお願い申し上げます。

おわりに—私たちがいまできること・すべきこと

➤ 東日本大震災被災地の図書館の「いま」

陸前高田市:	2010年人口	24,246人	
	2017年	19,661人	(2010年の約81%)
大槌町:	2010年	15,276人	
	2017年	12,145人	(2010年の約80%)

おわりに—私たちがいまできること・すべきこと

大槌町立図書館「城山図書室」(撮影日:2016.11.18)

おわりに—私たちがいまできること・すべきこと

陸前高田市立図書館（撮影日：2016.11.18）

おわりに—私たちが いまできること・すべきこと

陸前高田市立図書館
(撮影日:2016.11.18)

おわりに—私たちがいまできること・すべきこと

➤なぜ図書館が必要なのか？どのような図書館が必要とされているのか？


岩手日報 WebNews Google 検索
 ◎岩手日報Webサイト内

■啄木・賢治 ■世界遺産 ■盛岡三大類 ■携帯サイト ■新聞購読 ■社員募集 ■お買い物

7月3日(月) | トップページ | 選挙 | スポーツ | 企画・特集 | 暮らし・文化 | 経済

仮設図書館、役目終える 陸前高田、本設は20日開館

Tweet G+ 0 チェック



陸前高田市竹駒町の仮設市立図書館は30日、閉館した。2012年12月の開館から4年7カ月で約3万2600人が来館し、震災後の市民の憩いの場となってきたが役目を終えた。待望の本設図書館は同市高田町の大型商業施設「アパッセたかた」に隣接し、20日に開館する。

木のぬくもりあふれるログハウスの仮設図書館には、本設への移転に向けて本の貸し出しをやめた昨年12月以降も多くの人が訪れた。壁には職員手作りの本棚や全国から贈られた絵画などが飾られていた。

新しい図書館の貸し出しカードの事前登録は14日まで、建物の入り口付近で行っている。問い合わせは市立図書館（0192・55・3227）へ。

【写真＝役目を終えて閉館した仮設の図書館。本設施設は20日に開館する】

おわりに—私たちが いまできること・すべきこと

➤【3.11】「高所へ逃げろ」と書かれた陸前高田市立図書館の本が
たどった運命 地域の歴史を忘れず、伝えるために

(http://www.huffingtonpost.jp/2015/03/10/rikuzentakadashi-library_n_6837100.html) [引用日:2017/8/22]



おわりに—私たちがいまできること・すべきこと

「整った街並みが戻っても、文化財が戻らない復興は真の復興ではない。それは、この土地の自然、文化、歴史、記憶の集積であり、陸前高田のアイデンティティーだからです。」

『朝日新聞』2011年8月4日オピニオン欄掲載記事より、熊谷賢氏

(陸前高田市海と貝のミュージアム兼陸前高田市立博物館主任学芸員)

主な参考文献

- 矢田俊文, 長岡市立中央図書館文書資料室編『震災避難所の史料：新潟県中越地震・東日本大震災』(長岡市立中央図書館文書資料室、2014)
- 衛藤廣隆ほか「大災害時における地域の公共図書館の役割とその支援体制」(『千葉科学大学紀要』5所収)
- 中山貴弘「神戸大学附属図書館震災文庫とデジタルアーカイブ:その特色と今後の課題」(『専門図書館』232所収)
- 稲葉洋子「神戸大学「震災文庫」の挑戦：災害の記録」(『月刊IM』48-5所収)
- 福井新聞社『7・18豪雨 報道記録集』(福井新聞社、2004)
- 愛知川町立図書館編『水害のキオク～愛知川町風水害史～』(愛知川町立図書館、2006)
- 和歌山県立博物館編『命と文化財とを守るために：御坊市・美浜町・日高川町・那智勝浦町先人たちが残してくれた「災害の記憶」を未来に伝える I』(和歌山県立博物館施設活性化事業実行委員会、2015)
- 須山高明「川合小梅は嘉永七年の大地震を記録していた」(『和歌山県立文書館だより』26所収)
- 川合小梅『小梅日記』1～3 (平凡社、1974～1976)
- 芝祐仁「復興と市立図書館の再建—陸前高田市の新しいまちづくり 人を真ん中に」(『図書館雑誌』110-3所収)